

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～岩手県～

(課題)「英語教育改善プラン」が示す「生徒の英語力」及び「言語活動の割合」を向上させるため、小中高を通じた授業改善が必要
(分析)言語活動を中心とした授業の在り方が共有できていない。従来の授業の型にとらわれている教員が多く、生徒の言語活動を中心とした単元計画、指導計画になっていない。

○推進リーダー等を活用した研修会を通じて、言語活動を中心とした授業への転換を図る

①域内研修会(中・高)

- ・研修協力校2校で各2回の研修
- ・県内全域の中高から参加
- ・研究テーマに沿った、授業公開研究会
- ・外部講師による指導

②英語教育推進リーダー伝達研修(小・中・高)

- ・【小・中】年間延べ13回(各1日)実施。教育事務所単位で行う研修会の講師を担当。
- ・【高】年間延べ10回(各1日)実施。平成31年度ですべての英語教員参加終了予定。

③英語が好きになる学校づくり事業(小・中)

- ・研修協力校12校(小6、中6)が年1回の授業公開及び実践発表を行い、各地域の研修・研究モデル校の役割を担う。
- ・研修協力校担当者研修会の開催

成果と課題

	H27【中】	H30【中】	H27【高】	H30【高】		H27【中】	H30【中】	H27【高】	H30【高】
生徒の英語力(%)	33	36	34	38	英語使用状況(%)	58	71	73	75
言語活動の割合(%)	77	82	75	72	パフォーマンス(回)	3	6	2	4

《成果》

- ・「生徒の英語力」をはじめとして、多くの調査項目で改善が見られた。
- ・4技能を結び付けた統合的な言語活動を中心とした授業スタイルが浸透してきた。生徒の英語による言語活動を重視した授業改善がなされてきた。

成果の波及・周知について

- ・【小・中】県教育研究発表会及び中学校英語研修会等において、研修協力校の研究内容及び校内研修の方法等を周知した。
- ・【高】指導主事による学校訪問(全校)で実施する授業研究会にて成果の普及を図った。参考:延べ77校114名(1/20日現在+8名予定)
- ・県教委発行の英語科通信を定期的にすべての高校英語教員及び中学校英語教員に配布し、研修協力校等の取組を普及している。

《課題》

- ・多くの項目で改善が見られたものの、改善プランにおける指標のねらいや趣旨がまだ英語教員に浸透していないことも明らかになった。
- ・教員の授業における英語使用状況等は全国と比較して良好ではあるが、目指す生徒の英語力に十分反映されているとは言えない。

課題解決のための手立て

- ・改善プランにおける指標のねらいや趣旨を、今後も具体的に示しながら、授業力の向上を図る。
- 【中】授業改善方策シートの活用 【高】目的的学校訪問の充実
- ・校種間連携を軸に据えながら、県としての強みを活かした指導を推進し、生徒の英語力向上を図る。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～紫波町立古館小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・ 英語活動（低学年）、外国語活動（中・高学年）の授業実践を通して、周りの友だちと積極的に関わり合い、コミュニケーションを図ろうとする能力を身につけた児童の育成を図ること。
- ・ 新教材を活用した実践と実践事例の検証及び児童の実態や指導者のモチ味を生かした活動、また、外国語活動及び外国語科における言語活動の在り方を追究していくこと。

具体の取組の内容

（1）新学習指導要領を見据えた、新たな学びの実現に向けた学習と評価の在り方

- ① 新教材を活用した年間計画の作成及び実践
- ② モジュール学習を効果的に取り入れた単元展開
- ③ 「達成感、成就感」を感じることができる評価方法の実践

（2）言語活動の場の設定と工夫

- ① 英語で伝えるための新たな視点“SHARE”の意識化
- ② 自分の思いを伝える場の指導過程への位置づけ
- ③ 英語使用の日常化



<相手意識をもたせるキーワード>

成果①

◎英語を用いたコミュニケーション活動に前向きに取り組む児童が増加した。

◆意識調査の割合(%) 追跡データ(集団が同じ)

	H.29 4～5年	H.30 5～6年
①授業のコミュニケーションが楽しい。	90.7	92.8
②外国の人とコミュニケーションできるようになりたい。	90.1	92.1
③自分の考えを少しは英語で伝えることができる。	88.7	96.4
④HRTやALT、友だちの話す英語が何となくでも分かる。	89.4	96.8

成果②

- ① 短時間であっても、外国語に接する機会を多く設定し、授業との連動を考えたモジュール学習を展開することにより、学習内容の定着を図ることができた。
- ② 既習英語を用いてALT等とのコミュニケーションをとることができた達成感から、意欲の継続が見られ、それ以降の学習に前向きに参加することができた。
- ③ 校内放送や児童集会等において、英語のアウトプット場面を設定することで、楽しく英語を活用する環境づくりを推進することができた。

今後の課題・方向性

- ① Let's Try!, We Can!の活用実践の蓄積
- ② モジュール学習の目的の明確化と効果的な指導方法の在り方
- ③ 場面、形態に即したパフォーマンス評価のモチ方についての再考
- ④ 伝える相手に応じた表現の工夫
- ⑤ 対話形式やグループ活動等、自発的なアウトプット場面の設定
- ⑥ 英語使用の日常化を図ることができるような環境の醸成

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～花巻市立太田小学校～

目的

- ・ 英語への意欲、コミュニケーション活動への積極性を高める外国語活動の授業の工夫を図る。
- ・ 児童の興味や関心を引き出す校内の英語環境の充実を図る。

取組の内容

校内テーマ 3E English～Easy Enjoy and Egao～

1. 授業の工夫・改善

- ①授業づくりの柱
 - ア 意味のある言語活動
 - イ 関わる場、伝える場の設定
 - ウ 振り返りの活用
- ②校内研修の充実
 - ア 研究授業 指導法の研修
 - イ 教材の開発と共有
 - ウ 教職員の英語力向上

2. 校内の英語環境づくり

- ①「English Room」の整備
- ②「英語がある」環境づくり
- ③児童会活動や校内活動での英語の活用

成果その1

◎児童の変容 「英語が好き」「授業が楽しい」

- アンケートでの回答「外国語が好き」が9割
- コミュニケーションの活性化
- 目的意識を持った関わり合い
- 「リアクション」「アイコンタクト」「ジェスチャー」「クリアボイス」「スマイル」…いずれもレベルアップ
- 児童の語彙が増加

成果その2

◎教師の変容 「やってみよう」「できる！」

- クラスルーム・イングリッシュの語彙が増加
- 授業に活かせるゲームやアクティビティの増加
- 単位時間指導案（略案）作成
- 授業提案で全職員が授業の実際を知る
- 教材、絵カードが豊富に

成果その3

◎環境と意識の変容

「英語っておもしろい」「見たい！触れたい！」

- English Roomの整備＝児童の意識「英語を学ぶぞ」
- 外国語掲示板を通して、外国の文化を知る
- ALTポストを活用して、ALTがとても身近に
- 英語の本の読み聞かせで、語彙や表現に触れる
- 既習事項の壁面掲示で、学習内容を活用
- 階段の掲示 教室入り口の掲示で英語を目にする
- 「世界のあいさつデー」や「今月の歌」英語を口にする

今後の課題・方向性

！ 全面実施（中35・高70）の計画と評価

- ・ 授業時数の確保
- ・ 「書くこと」「読むこと」に係る活動の適切な位置付け
- ・ 評価についての正しい理解

！ 継続した環境づくり

- ・ 教材開発、研修の時間確保
- ・ 校内英語環境の更新
- ・ 研究授業を継続

！ 小中連携の機会の確保

- ・ 縦、横のつながりの構築と強化

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～平泉町立平泉小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・ALTやJETを活用した「外国語活動」の授業→①単元を構想できる振り返りカード ②ゴールの見通しを持たせる工夫 ③ALTやJETの活用やかかわり
- ・安心して声を発し、友達とかかわることが楽しいと実感できる授業作り→①段階的な言語活動の位置づけ方 ②帯の活動 ③授業展開の工夫
- ・授業改善に向けた研修の充実→ ・4月校内研究会 ・6月平泉町小・中交流研修会 ・7月(夏休み中2日間)校内研究会

具体の取組の内容

ゴールの見通しを持たせる工夫

3・4年生においては、1時間の授業がどのように進み、今日のゴールは何かを児童と共有するために、黒板脇のカードで授業の流れを可視化した。これに加え、5・6年生は、児童と担任が単元のゴールを共有するために、次の3つの出合わせ方で単元のゴールの形を繰り返し提示した。

単元のゴールにどんなことをするのか？

- 1 第1時 ALTがSmall Talkやデモンストレーションなどで行う。
- 2 第2時以降 HRTも同様の表現で行う。
- 3 単元の後半 単元のゴール(言語活動のモデルである英語表現)を予め提示する。

英語表現ではどう書くのかな？

そのために、どんな表現をすれば伝えられるのかな？

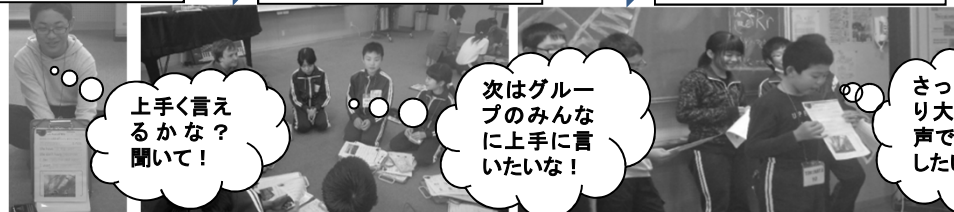
段階的な言語活動の位置づけ方

単元計画の工夫として、inputから intakeへ、さらに outputへ段階的に児童の英語を用いた活動が増えるように構想した。また、単元最後の発表の仕方を全体の前で1人ずつ発表する形ではなく、慣れ親しませるために複数回発表する場を設けた。

1回目 ペアで

2回目 グループで

3回目 全体で交流



上手く言えるかな？聞いて！

次はグループのみんなに上手に言いたいな！

さっきより大きな声で発表したいな

成果①

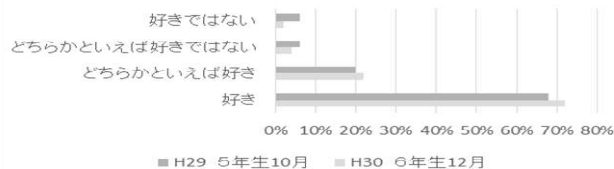
【6年Unit7 児童の振り返りカードの記述より】

第1時→学校行事の言い方が難しかったので、がんばって覚えたい。ストーリータイムが意外に難しかったので気をつけたい。
 第3時→協力しながらゲームができてよかった。思い出の行事を話すことができた。インタビューしていろいろな人に聞くことができたし、質問したり答えたりすることができた。
 第8時→思った以上に発表がうまくできたのでよかった。家で練習したときより上手に紹介できた。

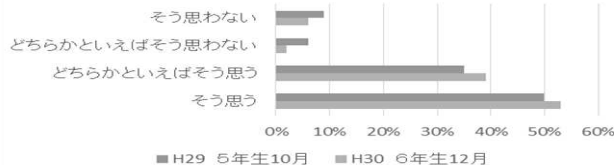
- ・単元のゴールの見通しを持たせる工夫をしたことにより、それに向かって前向きに取り組む児童が増えた。
- ・段階的な言語活動を位置づけたことにより、楽しく友達とかかわり、安心してインタビューや発表をすることができた。

成果②

外国語活動の授業は好きですか？



英語を使って外国人と話したり、仲良くなったりしてみたいと思いますか？



今後の課題・方向性

①教科書の内容の難しさ

- ・無理なく児童が学習できるように教科書の活用方法を工夫する。
- ・ALTやJETときめ細やかな打合せの時間を確保する。

②授業改善に向けた研修の充実と継続

- ・研修の充実と継続に向けた体制づくりを進める。
- ・教材研究の時間や掲示物・カード類を作成する時間を確保する。次年度は長期休業中に時間を設定する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～大船渡市立綾里小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

・外国語活動(外国語科)の中のコミュニケーションの場で、主体的に生き生きと活動する子どもの育成を目指す。

具体の取組の内容

1 単元のゴールを明確にした指導計画の工夫及び共通理解

- (1) 単元のゴールの児童の姿を明確にし、到達目標から逆算した授業づくりを行う。
- (2) 児童に授業のゴールを明確に示し、共有する。
- (3) コミュニケーションの必然性を持たせた場を設定する。



2 クラスルームイングリッシュ、アクティビティなどの英語運用能力の向上

- (1) ALT来校時の職員朝会時に、クラスルームイングリッシュを練習する。
- (2) 職員会議後に、アクティビティで用いる表現を練習する。
- (3) 毎月1回、相互授業参観を行う(校内教員及び隣接中学校英語科教員の参加)。

3 小中連携の視点から、外国語、外国語活動を通して体験させるべき活動の内容・方法を探ること

- (1) 単位時間の指導過程を、できる限り共通にする。
- (2) Small Talkを小・中学校で設定し、活動を共有する。
- (3) 振り返りの場面において、「振り返りカード」を活用し、ゴールについての自己評価と文章による振り返りを記述させる。
- (4) 中学校英語科教員とのTT形態の授業を実施する。



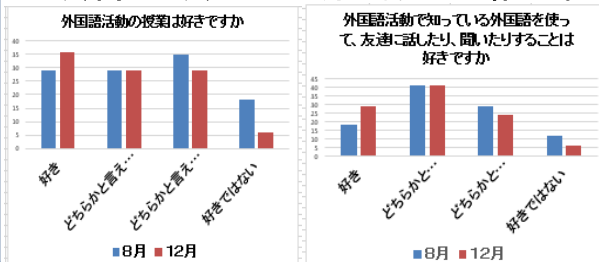
成果③

◎これまで以上に、外国語活動の中で積極的にクラスルームイングリッシュを使おうとするようになった。(教員)

・ALT来校時に、クラスルームイングリッシュの練習や、職員会議後のアクティビティで用いる表現の練習を行った。授業では、教師自らが英語を使おうとする手本になり、完ぺきな英語でなくても、ジェスチャーやカードなどを使い、伝えようとする姿を見せるなど努力をしている。

成果①

◎外国語活動が好き、英語を使って友達に話したり、聞いたりすることが好きな児童が増えた。



成果②

◎既習表現を活用し、英語を用いて生き生きと活動する姿が見られるようになった。

・自分が伝えたことを相手が理解しているか確認したり、相づちをうつなど反応したりしながら、やりとりする姿が見られるようになった。

・コミュニケーションを行う場面を設定することで、日常生活に関する話題を基に、児童が見通しをもって活動していた。

今後の課題・方向性

- ・コミュニケーションを行う場面において、相手意識を持たせるための指導はどうか研究を継続すること。
- ・英語の表現に慣れ親しませるための活動を繰り返すこと。
- ・新学習指導要領完全実施に向けて、目標や内容をよく理解し、どのような資質・能力を育成すればよいか理解すること。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～山田町立豊間根小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- (1) 本校研究テーマ「外国語活動・外国語の学習における児童の発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成」
- (2) 小中共同課題「英語で主体的に表現しようとする児童・生徒の育成 ～表現したいことによりそう指導を通して～」

具体の取組の内容

- (1) ・いわての授業づくり3つの視点「見通す」、「学ぶ」、「振り返る」に沿った指導
- (2) ・単元計画に、「相手意識」、「目的意識」、「必然性」等を組み込み、「表現したい」という意欲を引き出し、持続させながら学習を進める中で子どもたちに表現することやコミュニケーションへの自信をつけさせる指導。
・「よりそいポイント」①子どもたちの思いによりそう・・・子どもたちの思いをより明確にさせる、引き出す、自信をもたせる。
例：目的設定、場面設定、事前調査、活動形態（ペア・グループ）、Small Talk、机間指導、ALT・T2・T3の活用、相互評価等
②もの（ツール）としてよりそう
例：ワークシート、壁面掲示、黒板掲示、手持ちカード、ジェスチャー、デモンストレーション、ロールプレイング、ゲーム、チャンツ、VTR、教具、デジタル教材、ワークシート、振り返りカード等
- (3) ・環境づくり ①校内掲示（教室、広場、階段のステップ、Englishコーナー）
②放送（週1回English Timeで英語の歌や簡単なお話を紹介、ALTによる外国の文化の紹介）
③集会（全校での音楽集会で英語の遊び歌を取り入れる）
- (4) ・職員研修（Classroom English、研修会参加後の共通理解（資料参観、伝講会）、マイクロティーチング（模擬授業）、小中交流・幼保小交流等）

成果①

- ・英語に慣れ親しむ児童が増え、英語への抵抗感がなくなってきた。
- ・自分の思いを英語で伝え合うことの楽しさを味わうことで、達成感や次時への意欲が高まってきている。
- ・他教科の学習や、暮らしの中でも、簡単な英語を聞き取ったり、使ったりする様子が見られるようになってきている。
- ・児童の発達段階や思考の流れに合った学習のパターンが定まってきた。共通理解することができた。
- ・中学校英語科への継続と系統性を職員で共通理解することができた。

成果②

児童意識アンケート結果 (全校108人)

	6月	11月
「英語がとても好き」、「英語が好き」と答えた児童数。 (4段階評価)	77人 (71%)	81人 (75%) 4ポイントUP

今後の課題・方向性

- ・外国語活動・外国語の校内研究は、今年度始まったばかりなので、子どもたちの意識調査を継続し、学習の様子や定着の結果を観察しながら、子どもたちの思いによりそう英語の学習を工夫し、継続していく。
- ・各学年で押さえるべき単語や基本文、表現方法などの系統性を整え、指導計画を整理し、共通理解を図る。
- ・環境づくりを継続し、より充実させていく。
- ・職員研修も継続し、共通理解を図りながら、英語能力の向上を目指す。
- ・学区内の中学校・小学校・幼稚園・保育園と相互に授業の実践交流を継続する。

平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～洋野町立大野小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

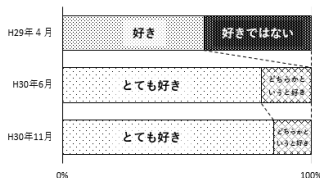
- 《重点課題A》 児童の英語に対する興味関心を高める環境づくり。 ⇒友達と一緒に楽しめる掲示や、授業以外で英語に親しむ活動。
- 《重点課題B》 児童が自信をもって自己表出できるための集団形成。 ⇒様々な活動を位置付けた単元および授業構成。
- 《重点課題C》 英語を用いた指導法の充実。 ⇒ALTやDVD等の活用方法の工夫。英語運用能力を高めるための校内研修。

具体の取組の内容

- <重点課題A> 児童の英語に対する興味関心を高める環境づくり。
 - ・花の名前、町の建物などの英語カードやポスター、外国の国旗を掲示し、学ぶ雰囲気のある特別な教室(イングリッシュルーム)を作った。
 - ・全校児童の目に触れる場所に英語関連の掲示をしたり、保健室の掲示で英語を取り入れたりして、楽しく自然に英語にふれられるようにした。
 - ・町英語暗唱大会で1位になった本校の卒業生が来校し、全校朝会で上手な英語の暗唱を披露した。
- <重点課題B> 児童が自信をもって自己表出できるための集団形成。
 - ・正解を追究する学習ではないことを共通認識とし、抵抗感のある児童に意欲と自己表出の勇氣と機会が与えられる学習の場となるようにした。
 - ・「話す」「聞く」「歌う」「遊ぶ」「絵を描く」「単語をまねる」等、様々な活動を位置付けた単元と授業構想を行った。
 - ・学習後の自己評価により、学習したことや楽しかった活動を振り返り、次時への期待を高める。
 - ・4年生は、学習発表会で劇の中に英語の台詞を取り入れた。
- <重点課題C> 英語を用いた指導法の充実。
 - ・ALTに給食のメニューを昼の放送で紹介してもらう。
 - ・校内研修を行い、外国語活動のねらいの確認、指導法の交流を行った。

成果①

Q. 英語が好きですか？



- イングリッシュルーム、掲示コーナー、放送、集会活動など全校児童が英語にふれ、親しむことができるように取組んだことで、英語を身近に感じ、外国語活動の授業に対する興味・関心の高まりがみられた。

成果②

- 発表し合い、考えを共有する楽しさを知り、積極的に思いを伝え合おうとするようになった。さらに、他教科においても、積極的に考えを表現したり、相互に高め合おうとしたりする姿が見られるようになった。
- ALTと打合せ以外でも積極的に関わることで、授業での連携が向上した。
- 校内研究会や研究授業などにより、教員の外国語活動に対する関心を高め、理解を深めることができた。(研究会4回(授業提案2回))

今後の課題・方向性

- 外国語の本格実施にむけて、3,4年生の外国語活動、5,6年生の外国語科の学習へ本研究の成果を生かす。
- 授業における英語運用能力の向上のための研修を推進する。
- 中学校区での小・中連携
 - ・合同研修会の実施
 - ・授業提案やクラスルーム・イングリッシュなどの共通理解。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～岩手町立沼宮内中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・外部試験等の結果から全体的な定着の低さ、特に「書くこと」の正答率が低い点が顕著に見られる
- ・「書くためには、まず話せなければならない」をモットーに、楽しんで英語でコミュニケーションをする授業改善を図る

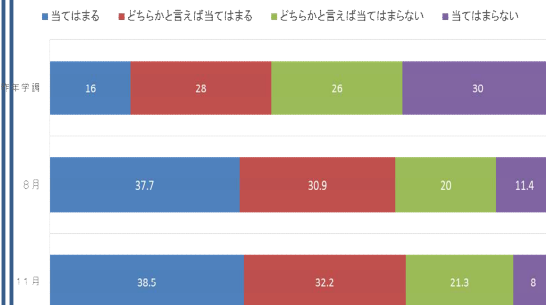
具体の取組の内容

- 1 コミュニケーションの力を高めることを意識した授業づくり
アウトプットを意識した活動、ペアやグループ活動
- 2 基礎を固める授業と家庭学習のサイクル化
小学校の学習活動の要素を取り入れ、楽しく学べる活動の工夫
- 3 英語を使いたくなる環境づくり
英語教室、生徒作品の掲示、英語の歌、ALTの効果的な活用
- 4 小学校・高校の英語授業を参観
- 5 全教員が1度は参加し、英語でのコミュニケーションに取り組む英語授業



成果①

英語の勉強は好きですか



英語が好きと答える生徒の増加

昨年の学調(現3年)と今年度(8月、11月)の全校生徒に対するアンケートの結果から、肯定的な生徒の数が増えてきた

成果②

◎発表することが、自信へ

基礎的な内容を暗唱発表したり、本文を工夫して音読発表することに意欲的に取り組む生徒が増えた。My Project等の発表での自信につながってきている。

◎話すことから書くことへ

授業での英作文の取り組み等で、書き始める時間が早くなってきた。また、定期テストでの「書くこと」の問題で、無解答が減るなど「書くこと」を諦めない生徒が増えた。

今後の課題・方向性

まだ、外部試験等の結果から、「書くこと」の力がついたとは言えない。

今後は以下の視点で授業改善の図っていききたい。

- ◎ 即興で話す活動を増やし、様々な場面や状況で話せる力をつける
- ◎ 自分の考えをまとめて話す活動の場を増やす
- ◎ 書くことにつなげるフォニックスの指導の研究と実施
- ◎ 定着につながる家庭学習の工夫

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～北上市立南中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・生徒が積極的に自分の考えや意見を発表するような自己表現活動を意識した授業づくりをする
- ・生徒が楽しんで学ぶことができる環境づくりと生徒の言語、文化への興味関心を高める

具体の取組の内容

- 地域の教育研究会と連携し、市内の英語科教員参加の授業公開および研修会を実施（「英語が好きになる学校づくり事業」授業公開研究会）
- 自己評価カードの作成と共有
 - ・单元ごとに自己評価カードをつくり、单元ごとのゴールと毎時間の目標を生徒と共有した。また、新出の文法事項を用いた1, 2文の英作文を授業の最後に自己評価カードに書くようにした。
- 表現活動を取り入れた授業
 - ・帯活動では即興性を養うQ&Aを行った。その日のテーマを教員から提示し、30秒から1分以内でペアで会話を繋げる活動を行った。
 - ・单元後には、パフォーマンステストを実施した。ルーブリックを作成し、生徒と到達目標の共有を図ったり、生徒同士の評価も行ったりした。
- 校内の国際理解コーナー・英語表示・レポート作成
 - ・ALTの協力のもと、外国文化を紹介するポスター等を掲示し、また、生徒が授業で作成した英語のレポートを教室に掲示した。
- ALTとのEnglish Club
 - ・昼休みに希望者が集まり、ALTと10～15分程度の英語のゲーム等を行うEnglish Clubを開いた。

成果①

○授業に意欲的に取り組む生徒が増えた。

○英検に挑戦し、3級以上合格者が増えた。

3年生は55名が3級、11名が準2級に合格し、3級以上は全体の約40%となった。

○自己評価カード、パフォーマンステストは数年前から継続して改善しながら取り組んでおり、昨年の2年生は、県学調において、県平均を上回る結果となった。



年度	年	平均	各分野の正答率					
			聞く	読む	書く	理解	表現	知理
平成29年度	2年	62.7 (53.7)	85.1 (78.8)	61.3 (51.4)	55.6 (46.4)	67.9 (59.1)	40.9 (27.4)	62.1 (54.8)

成果②

○周囲と英語でコミュニケーションを取ったり、自分を表現したりする生徒が増えた。発表内容に様々な工夫を凝らす生徒もいる。

○ALTと積極的に話しかけようとする生徒が増えた。給食、昼休みに会話を楽しんでいる。

今後の課題・方向性

①即興性の高いパフォーマンステスト

・これまで行ったパフォーマンステストは、preparedなものが多かったため、内容を吟味し、即興性の高いテストを実施していきたい。

②ルーブリックの活用

・今年度から試みたルーブリックを改善、活用し、より良いパフォーマンスにつなげるための生徒と教師の到達目標の共有を図りたい。

③継続したPDCAサイクル

・今後は英語科だけでなく他教科とも連携し、共通理解を図りながら、自己表現できる生徒の育成を目指していきたい。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～金ヶ崎町立金ヶ崎中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・本校・本町の特徴を生かし、本校生徒の現状に応じたCan-Doリストの作成
- ・英語が好きな生徒を育成するため、学習到達目標(Can-Doリスト)を活用した英語指導の改善

具体の取組の内容

○金ヶ崎中学校版Can-Doリスト「KP(Kanegasaki Project)」の作成・活用

- ・英語の4技能に加え、他教科、領域、学校行事等(校外活動を含む)を内容に加えることで、国際理解教育を学校の教育活動全体を通じて行うことを明示。
 - ⇒ 英語科が指導の中心となり、他教科、領域等で学んだこと、経験したことを、授業内容と関連させ指導。
- ・他に発信することを主とした各年度末、3年間の到達目標を明示。
 - ⇒ 第1学年：自己紹介ビデオレター(海外派遣生徒が、米国の姉妹都市へ届ける)
 - ⇒ 第2学年：金ヶ崎中・金ヶ崎町紹介英字新聞(同上)
 - ⇒ 第3学年：英語ディベート・発信活動(意見文を町役場へ報告)
- ・新学習指導要領に対応させ、「話すこと」については、「発表」と「やりとり」に分けて明示。

成果①

○アンケート(3学年対象 12月実施)

	肯定的回答の割合	昨年の自分と比較(よくなったと思う割合)
英語得意	34%	63%
英語好き	85%	89%
授業理解	69%	78%

- ・「昨年度よりも得意、好き、理解できるようになった」という解答が多い。
- ・「得意ではないが、英語の授業が好き」という解答が多いことも成果である。
- ・英語検定受検者が増加(44%⇒65%)

成果②

○英検IBA(2学年対象 10/3 実施)

	平均(点)	語彙(%)	読解(%)	聞取(%)
本校	686	74.4	55.8	65.7
県	675	72.8	55.5	62.8
県比	+11	+1.8	+0.3	+2.9

- ・いずれの項目においても、県平均を上回る結果となった。
- ・特に、聞き取り(音声面)については、小学校の外国語活動の成果を生かした中学校英語指導の結果と考えられる。

今後の課題・方向性

○Can-Doリストの内容について

- ・生徒の学習、振り返りに役立つものという点では、改善が不十分。
 - ⇒ 各項目の吟味、文言の吟味が必要
 - ⇒ 各学年用の詳細版が必要(毎Programの詳細、学習方法等)
- ・確認問題・パフォーマンステスト設定

○小学校外国語活動とのスムーズな接続

- ・本町は「英語教育の町 金ヶ崎」を掲げ、幼稚園から外国語・外国人に触れる機会を設定している。ストレスなく中学校英語に移行・活用できるよう、小学校の指導を把握した上で、中学校初期からの指導の工夫が必要。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～大船渡市立綾里中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

「書くこと」を通して自分の考えや思いを表現できる生徒の育成

◎重点課題

【授業づくり】

- ・「自分の考えを相手に伝えるために書く」活動を、3年間を見通して、継続的に行う。
- ・生徒が「書きたい」と思うようなゴールを設定する。

【環境づくり】

- ・日常生活の中で、英語に触れられる環境作りを行う。

具体的取組の内容

【授業づくりについて】

- ・伝える相手を明確にした題材を設定する(学年の系統性を鑑み、年間指導計画を作成)。
- ・教科書の題材について、リテリングに取り組みさせる(音読からリテリング、そして書くことにつなげる)。
- ・Small Talkを小・中学校で設定し、活動を共有する(既習表現の活用場面および定着を図るために、授業開始時に位置付け、毎時間行う)。

【環境づくりについて】

- ・英語教室を設置し、英語学習に取り組む環境を整備する。
- ・綾里小学校との交流を計画的に行い、小学校での学習内容や学習の様子を把握する。

【英語学習の意欲を高めるための取組】

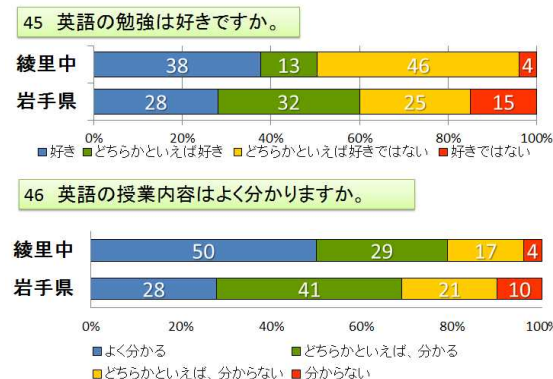
- ・校内英語暗唱大会の開催
- ・ALTとの異文化交流
- ・サンディエゴ野球チームとの交流会

成果①

- ・「相手に伝えるために書こう」という相手意識や、「自分の表現したいことを書きたい」という動機付けにつながった。
- ・他の生徒の発表や作品から学ぶ機会を作ることができ、意欲の向上につながった。
- ・小中連携を充実させ、小学校外国語活動でどのようなことが行われているかを知ることができた。

成果②

平成30年度 岩手県中学校学習定着度状況調査(2年生)



今後の課題・方向性

- ①3年間を見通した年間指導計画やCAN-DOリストの作成
→各学年の単元において、どのような力を身に付けるか明確にし、そのために必要な言語活動を設定する。
- ②個に応じた指導
→得意な生徒も苦手な生徒も意欲的に取り組み、お互いから学び合える授業づくりを行う。
- ③教師の英語運用能力・授業力の向上
- ④英語教室や、生徒が英語に触れる場面の充実

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～山田町立豊間根中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

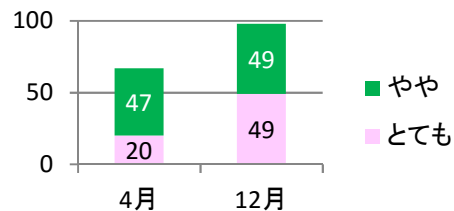
- ・主体的に英語を使おうとしたり、表現しようとする生徒の育成へ向けた環境づくりに努める。
- ・小中連携を意識した上で、生徒に『寄り添い』きめ細かな指導を継続し「わかる」授業の実践に努める。

具体の取組の内容

- 英語学習に臨むための環境づくり(教室レイアウトの工夫・異文化理解の機会設定)
- 英語検定の受験促進(町教育委員会の受験料補助により全校生徒受験)
- 生徒に『寄り添う』指導の工夫(自由自在に英語を使おうとする場面設定・継続した英作文指導)
- 小・中連携し一貫した教育を目指し、指導方法の共有(学区内小学校「外国語」の授業参観、研究会参加)
- 「岩手の授業づくり3つの視点」に基づく授業構想(特に「学習の振り返り」の場面)
- 帯学習の工夫(英語の歌・暗唱・継続的なQ&A)
- 英語の授業を意欲的に取り組むための工夫
(ペア学習、振り返りと連動させた家庭学習、パフォーマンステストの定期的な組み入れ)

成果①

・質問「英語授業に意欲的に取り組んだか」に対する肯定的回答の推移
→主体的に英語学習に取り組む生徒が多くなった(ととも: +29ポイント)。

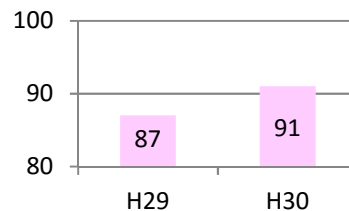


<生徒のコメントより>

・ペアの人と学習してお互い教え合うこともできたし、歌やQ&Aを楽しくできた。

成果②

・質問「英語授業はよく分かるか」に対する肯定的回答の推移
→「学習活動」を通してその成果をしっかりと確認している生徒が多くなった。



<生徒のコメントより>

・授業で習った単語を覚えて本文をしっかりと理解できた。

今後の課題・方向性

【課題】

- ・自由自在に英語で表現したり自分の思いを表現したりするために必要な語彙力・表現力を育成する。
- ・授業における教員のスキルアップを図る。(英語使用率の向上など)

【方向性】

- ・英語科における『英語で主体的に表現しようとする生徒の育成～表現したいことに寄り添う指導を通して～』を実現するための言語活動の在り方について研究を進める。
- ・学区内の小学校と相互に授業の実践交流を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～洋野町立大野中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・英語科における校内研修の充実(初任者研修を含む)→モデル授業の実施
- ・小学校英語必修化に伴う小中連携体制の強化→小中体験交流・パフォーマンス交流による連携の環境づくり

具体の取組の内容

「英語が好きになる学校づくり事業(岩手県教育委員会事業)～小中連携体制の強化～」

- (1) 英語科における「岩手の授業づくり3つの視点」を取り入れた授業改善→教科研(校長モデル授業の実施)
 - ・【学習の見通し、課題への気づき】→学習課題の設定時に「We Can!」の活動を取り入れたモデル授業(6月6日実施)
 - (2) 小中連携を取り入れた英語科研究授業の実施
 - ・モデル授業(校長授業を初任者が参観・管内実践教員の授業参観・小学校授業の参観)・交流授業(6月13日実施)
 - (3) 小中連携に係る環境づくりと体験的イベント、パフォーマンスの実施【本年度の重点】
 - ・小学校卒業式における英語での歓迎スピーチ(校長)
 - ・中学校生徒の学区内小学校への派遣(小中副校長・英語科)
- ☆英語暗唱大会出場者の小学校でのパフォーマンスと交流
☆小中連携しての読み聞かせ交流・合唱交流・国際交流体験・英語コミュニケーション交流



成果

- ☆「We Can!」を「いわて授業づくり3つの視点」の各段階で、活用するという本校の小中をつなぐ英語授業づくりのベースを確認できた。
- ☆各種のイベント交流を学区内の小学校の協力で実現し、児童生徒レベル、目線での小中交流の環境づくりができた。これらの交流をベースに中学校英語や表現活動への憧れの気持ちや小学校でのパフォーマンスを通しての中学生の自己肯定感を培うことができた。
- ☆小中連携は小小連携、地域連携と大きく関わっている。英語の小中連携はその一部であり、サステナブルなイベント交流を学区内小学校と確認できた。

今後の課題・方向性

- ☆「We Can!」等の小学校教材を効果的かつ効率的に生かした授業を工夫していくこと。そのためには小学校の授業を多く参観し、中学校の授業に取り入れること。
- ☆コミュニケーション活動やパフォーマンスの対象者として、小中学生を効果的に活用し、ウィンウィンの関係性を確立すること。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～岩手県立花巻北高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

(課題1) 英語の4技能の能力向上を目指した授業改善

(課題2) パフォーマンステストとルーブリックの確立

(手立て) ①ゴールの共有 ②言語活動の充実と高度化 ③パフォーマンステストの実施 ④ルーブリックの確立

具体の取組の内容

①②③④学習評価目標(観点別評価)及びCAN-DOリストを生徒と共有

①②③④パフォーマンスを効果的に行うためにゴール(レッスン全体のゴール、本時の授業のゴール)とルーブリックを生徒と共有

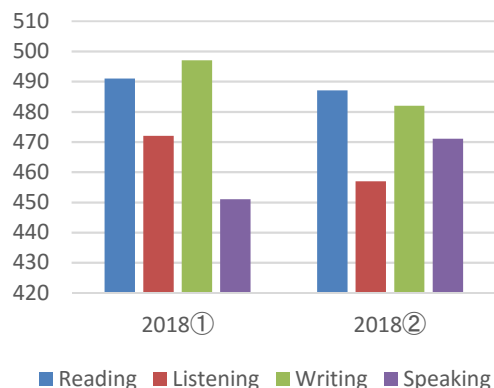
②③④パフォーマンスを効果的に行うための基本的なコミュニケーション能力の養成(言語活動の充実と高度化)

②③生徒に考えさせる発問をする(思考力・判断力・表現力等を育成)

②③④授業において生徒に十分な言語活動に取りくませた上で、話すこと・書くことはパフォーマンステストで評価。聞くこと・読むことは考査で評価。

成果①

英検Speakingが上昇



成果②

パフォーマンステストの実施とルーブリックの確立

- 1 Speaking, Writingに関するパフォーマンステストを定期的の実施することができた。
- 2 生徒がゴールとルーブリックを意識して授業に臨む(英語を使用する)ようになった。
- 3 生徒がペアやグループによる活動に意義を見いだすようになった。
- 4 生徒が文法や語彙、発音の学習に主体的に取り組むようになった。

今後の課題・方向性

- 1 言語活動の充実と高度化
→即興的な会話、スピーチ、プレゼン、ディベート等の実施
- 2 教員の授業における英語使用意識改善
→「授業は英語で行うことを基本とする」のポイントの共有
- 3 経年比較や追跡調査等による効果分析
→民間の資格・検定試験を活用(英検、GTEC)
- 4 大学入学共通テストへの対応
→基礎的な知識の確実な定着を図る。多様な素材を言語材料とする。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～岩手県立宮古高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- (課題1) 内容理解に係る評価と指導改善
(課題2) 表現活動における語彙・語法・表現の正確さの指導改善
(手立て) ①シラバス・CAN-DOリストの共有 ②互見授業、英語科会議の実施
③新たな授業スタイルや指導体制の検討 ④小・中学校公開授業参加 ⑤域内研修会の実施

具体の取組の内容

- ①シラバス・CAN-DOリストの生徒・教員間での共有・・・育成したい力を確認・共有
②互見授業と英語科会議・・・指導改善研究
③・スピーキング・ライティングテストの習慣化・・・目標:月1回。年度始めにテストの具体的内容・規準の提示
・定期的なライティング指導・・・全体では授業(英語表現を中心に実施)、希望者には個別での添削
④近隣小・中学校の公開授業参加(豊間根小学校・宮古第一中学校・豊間根中学校)・・・各年代の課題把握
⑤域内研修会・・・近隣の中学校・高等学校から英語科教員の参加。公開授業を通じての地域生徒の課題の共有

成果①

【表現活動への取組の積極化】

(1)4、5月

取組に消極的で、準備が不十分な生徒が多数。

(2)10、11月

年度始めにパフォーマンステストの具体的内容・規準の提示を徹底することで、生徒への動機付けを図ることができた。また、知識・理解を測るテストでは分からなかった生徒の良い面の発見に繋がった。

成果②

【外部試験(英検)合格率上昇】

(1)実用英語技能検定合格率

第1回:43.3%

第2回:53.5%→10.2%上昇

※第1回・・・30名中13名合格

(2級:8/19名、準2級:5/11名)

第2回・・・28名中15名合格

(2級:7/17名、準2級:8/10名)

今後の課題・方向性

- ・内容理解に係る指導改善研究の改善
- ・表現活動の指導改善研究の改善
→互見授業の回数増加
英語科会議の定期化
研修会後の情報共有方法明確化
- ・生徒の家庭学習時間の確保に向けた課題の出し方
→授業とリンクした課題の提示